

業務システムの最適解を目指す

Windowsシステム 拡充プロジェクト

株式会社クレオ CBMS ZeeM

ERPシステムを導入する企業ユーザーには、さまざまなニーズが存在する。機能拡張をしたい、システム間連携をしたい、細かいところでは伝票入力画面の項目名を変えたいなど……。これらのニーズに対応するのは、なかなか骨が折れる作業だ。今回はユーザーニーズの対応を第一に最適化されたERPシステムを紹介しよう。

3つの特徴を持つ ERPシステム

今回紹介するWindowsシステムは、クレオの「CBMS ZeeM」。NET Framework対応のERPパッケージだ。ラインナップとして「財務管理会計」「人事給与」という2種類のパッケージが用意されている。この製品は大きく分けて3つの特徴がある。

- ①機能拡張がしやすい
- ②リッチクライアント採用
- ③社内外のシステム連携

それぞれの特徴について製品担当者に話を伺った。



株式会社クレオ
CBMS事業部 ZeeM開発部担当部長
林 聖一

必要な機能を 迅速に組み込みたい

まず、ひとつめの機能拡張のしやすさについて、林聖一氏は次のように語る。

「従来のERPは大企業にしか導入できないシステムでした。というのは、中小企業が導入するにはあまりにも値段が高すぎるのです。また、たくさんの機能が搭載されており、必要のない機能まであるという点もネックとなっていました。そこで、CBMS ZeeMは、必要な機能を必要ときに素早く組み込めるERPシステムを目指しました」

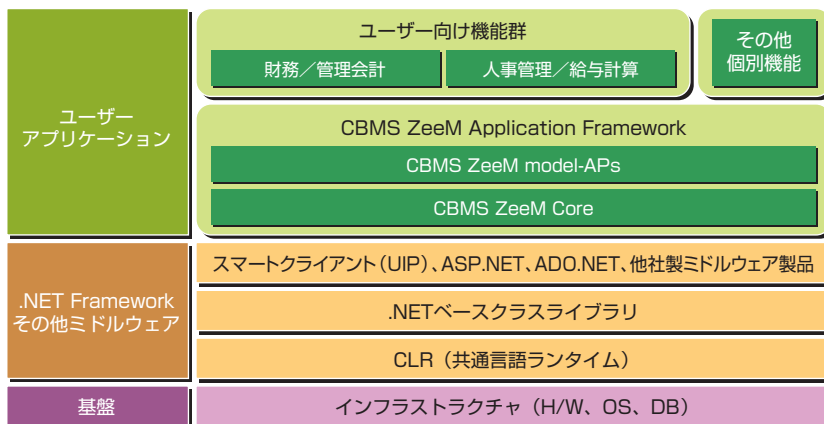
では、迅速な機能拡張を行なうために、CBMS ZeeMの内部はどのような

構造になっているのだろうか。

「CBMS ZeeMの内部では、.NET Frameworkの上に“CBMS ZeeM Application Framework”（図1）という拡張フレームワークを載せています。CBMS ZeeM Application Frameworkは、“CBMS ZeeM Core”と“CBMS ZeeM model-APs”という2階層に分かれています。

CBMS ZeeM Coreは、あらゆるシステムで利用される汎用的な機能をコンポーネントとして取りまとめています。しかし、これだけでは自由度が高すぎて作り込まなければならない機能が多く発生します。そこで、CBMS ZeeM Coreの上にもうひとつCBMS ZeeM

図1：CBMS ZeeMのアーキテクチャ



model-APsというフレームワークを用意しています。これは、財務管理会計／人事給与システムで利用される共通の機能を取りまとめたコンポーネント群です。財務管理会計と人事給与の各製品にはそれぞれ専用のCBMS ZeeM model-APsが用意されています。

そして、ZeeM Application Frameworkの上にあるのが、実際にエンドユーザーが利用する機能群です。これらのうち必要な機能を選択して独自のERPシステムを構築してゆきます。もちろん、搭載されていない機能を別途実装することも可能です。このように共通の機能をあらかじめ用意しておくことにより、迅速な機能拡張を実現しているのです」

リッチクライアントの採用

ERPシステムにとって、クライアント側のアプリケーションが高機能であるかどうかは重要なポイントとなる。というのは、膨大な量のデータを入力しなければならないからだ。そこで、CBMS ZeeMではリッチクライアントを採用している。

「データ入力の担当者は、我々の想像を絶するスピードで伝票にデータを入力していきます。担当者の入力スピードに対応するためにはWebでは限界

がありました」

では、CBMS ZeeMのリッチクライアントにはどのような機能があるのだろうか。中嶋雄一氏は次のように語る。

「CBMS ZeeMでは、現場の担当者が使いやすい機能を多数搭載しています。たとえば、人事給与パッケージに搭載されている業務進捗管理機能はそのひとつです。この機能は、業務担当者の定型業務フローをそのままメニューに設定して、メニュー上のチェックボックスを活用することにより進捗状況をひと目で確認することができます。給与計算実行まえの金額データを複数の担当で登録できるなど、複数の担当で行なう業務に対応しています」

社内外のシステム連携

3つめの社内外のシステム連携。これはどのようにして実現しているのだろうか。

「システム間連携には、SOAの考え方が重要になってくると思います。今回採用した東芝テックの.NET Framework対応アプリケーションサーバーCrossMissionのアーキテクチャは、SOAの実現を意識して設計されていますので、SOAによる社内外のシステム間連携を容易に実現することができます。

またCrossMissionは、POSシステム

での利用も考慮されており、何万台もの端末を接続することが可能です。多くの入力端末数からの要求をスムーズに処理できる性能やトランザクションの信頼性というのも、採用を決めた理由のひとつですね」

ADO.NETは最高！

最後になぜ.NET Frameworkを選んだのか聞いてみた。

「理由のひとつとして、.NET Frameworkの機能が豊富だからという点があります。とくにADO.NETは、オブジェクト化を目指しながらもレスポンスを考慮し、あえてオブジェクト的でない部分を残すなど、数あるO/Rマッピングの実現方法の中でもっともバランスがよいと思います」



株式会社クレオ
CBMS事業部 ZeeM開発部
中嶋 雄一

拡充のポイント

- ・システムに必須となる共通の部品をあらかじめ用意することにより、エンドユーザーが欲しい機能を迅速に実装することができる
- ・リッチクライアントを採用し、現場の担当者が使いやすい機能群を多数搭載
- ・システム間連携は、SOAを使って実現